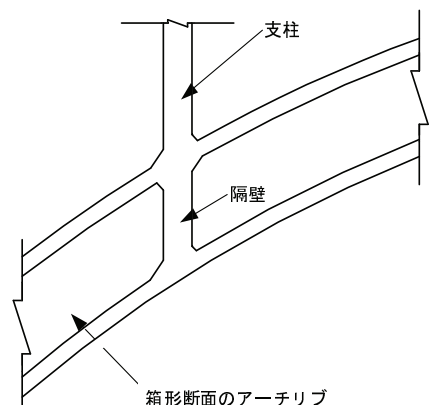


2002 年制定 コンクリート標準示方書 [構造性能照査編]

正誤表

(第 1 刷 , 第 2 刷に対応)

頁	行など	誤	正
	委員の 3 行目・河村の所属	(株) ピー・エス	(株) ピー・エス
p.30	式 (解 3.2.4)	$\varepsilon'_{sh} = -50 + 78[1 - \exp(RH/100)]$ $+38 \log_e W - 5[\log_e(V/S)/10]^2$	$\varepsilon'_{sh} = -50 + 78[1 - \exp(RH/100)]$ $+38 \log_e W - 5[\log_e(V/S/10)]^2$
p.32	解説 表 3.2.4 のタイトル	解説 表 3.2.4 式 (解 3.2.14) における係数 a, b の値	解説 表 3.2.4 式 (解 3.2.13) における係数 a, b の値
p.39	式 (3.3.2)	α	a
p.41	11 行目	α	a
p.41	図 3.3.1 (c)	$\sum = 0.8 f_{ud}$	$\sigma = 0.8 f_{ud}$
p.52	(解 4.4.1)	w_z	w_s
p.67	10 行目	$\beta_p = \sqrt[3]{100 P_v}$	$\beta_p = \sqrt[3]{100 p_w}$
p.67	19 行目	$P_v = A_s / (b_w \cdot d)$	$p_w = A_s / (b_w \cdot d)$
p.70	1 行目	$\beta_n = 1 + 2 M_0 / M_d$	$\beta_n = 1 + 2 M_0 / M_u$
p.73	式 (6.3.9)	$f'_{pcd} = 0.20 \sqrt[3]{f'_{cd}}$	$f'_{pcd} = 0.20 \sqrt{f'_{cd}}$
p.88	式 (6.4.14)	$M_{tyd} = 2 A_M (V_{odi})_{\min}$	$M_{tyd} = 2 A_m (V_{odi})_{\min}$
p.116	式 (解 8.3.4)	k_1	k_{1f}
p.116	3 行目	永久荷重に応力度	永久荷重による応力度
p.116	4 行目	k_1	k_{1f}
p.116	4 行目	3.3.2 (2) による	3.3.2 (3) による
p.125	9.4.4 「中間帯鉄筋」の解説 6 行目	「中間帯鉄筋は、軸方向鉄筋かそれとも帯鉄筋またはフープ鉄筋に直接かけるとともに、……」	「中間帯鉄筋は、その機能が十分に発揮されるように、軸方向鉄筋、帯鉄筋またはフープ鉄筋に直接かけるとともに、……」
p.136	式 (9.5.2) の下 2 行目	f_{ud}	f_{yd}
p.155	(解 10.4.2) , (解 10.4.3)	ϕ	φ
p.156	$\varepsilon'_{cs,k}$ の説明	材齢 t_k におけるコンクリートのプレストレス導入後	材齢 t_k におけるプレストレス導入後
p.156	$\sigma_{csp,j}$ の説明	材齢 t_j におけるプレストレス導入までの収縮による PC 鋼材位置	プレストレス導入までの収縮による、材齢 t_j における PC 鋼材位置
p.157	$\sigma_{css,j}$ の説明	材齢 t_j におけるプレストレス導入までの収縮による引張鉄筋位置	プレストレス導入までの収縮による、材齢 t_j における引張鉄筋位置
p.157	$\sigma_{css',j}$ の説明	材齢 t_j におけるプレストレス導入までの収縮による圧縮鉄筋位置	プレストレス導入までの収縮による、材齢 t_j における圧縮鉄筋位置
p.157	d', d_p, d の説明	それぞれ圧縮縁から……引張鉄筋での	圧縮縁から……引張鉄筋までの
p.171	3 行目に追加		P'_c : 部材の圧縮側断面上に作用する軸方向力
p.202	図 12.4.1		 図 12.4.1 箱形断面アーチリブの隔壁

頁 行など	誤	正
p.206 解 (12.5.1) の末尾に追加		その他の記号は式 (6.3.3), (6.3.4) に準じる
p.234 解説 図 13.3.4	$T \sim 0.25P$	$T \triangleq 0.25P$
	$T \sim 0.50P$	$T \triangleq 0.50P$

(第1～4刷に対応)

p.104 29 行目	式 (7.6.5) は構成されて	式 (7.4.6) は構成されて
-------------	------------------	------------------

(第1～5刷に対応)

p.59 解説 図 6.1.1	設計断面耐力 $S_d = \dots$	設計断面力 $S_d = \dots$
p.59 解説 図 6.1.1	照査 $\gamma_f S_d / Rd \leq 1.0$	照査 $\gamma_i S_d / Rd \leq 1.0$
p.59 解説 図 6.1.2	荷重の特性値 F_k γ_m 設計荷重 f_d	荷重の特性値 F_k γ_f 設計荷重 f_d
p.111 式 (解 7.5.10)	$\delta_s = k \int \frac{2V_d}{GA_e} dx$	$\delta_s = k \int \frac{V_d}{GA_e} dx$
p.198 12.3.2 構造解析 解説(2)②	部材がその軸線に対して 30° 以上.....	部材がその軸線に対して 25° 以上.....
p.206 8 行目	式解 (12.5.1)	式 (解 12.5.1)
p.206 10 行目の式番号	解 (12.5.1)	(解 12.5.1)
p.208 下から 9 行目～8 行目	 正の曲げモーメントに対しては, 式 (解 12.5.1) によって, 固定端の負の曲げモーメントに対しては, 式 (解 12.5.2) によって,	 正の曲げモーメントに対しては, 式 (解 12.5.2) によって, 固定端の負の曲げモーメントに対しては, 式 (解 12.5.3) によって,
p.208 下から 6 行目の式番号	(解 12.5.1)	(解 12.5.2)
p.208 下から 5 行目の式番号	(解 12.5.2)	(解 12.5.3)

表現として分かりにくい部分も含む